

特集  
野鳥の楽園

ウトナイ湖に行ってみよう！

キジバト

日本初の野鳥の聖域、ラムサール条約湿地。世界的にも知られる貴重な自然環境と市民が気軽に足を運べる水辺が同居するウトナイ湖。私たちに身近な野鳥の楽園「ウトナイ湖」で豊かな自然に親しんでみませんか？

豊かな自然を体感しよう！

ウトナイ湖といえば、冬のハクチョウというイメージがありますが、1年中を通してバードウォッチングを楽しむことができます。また、湖には野鳥や動植物を観察することができる施設が整備され、手軽に自然観察を楽しむことができます。

これからの季節は動植物も活発に活動を始めます。また、皆さんも屋外に出かけることが多くなると思いますが、そんなとき、ウトナイ湖の自然観察歩道や道の駅、野生鳥獣保護センターに立ち寄り、ウトナイ湖の豊かな自然を体感してみませんか？

に行ってみよう！

開館時間 9時～17時  
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)、年末年始  
入場料 無料  
電話番号 58-2231



ウトナイ湖に面した窓から望遠鏡を使用して野鳥を観察することができます

「国指定ウトナイ湖鳥獣保護区」から大人までが気軽に楽しめた、国指定ウトナイ湖鳥獣リハビリもしています。

「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」



開館時間 9時～17時  
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)、年末年始  
入場料 無料  
電話番号 58-2231



野生鳥獣保護センター横から自然観察歩道に入ることができます



館内では自然や野鳥に関する展示や情報により、ウトナイ湖を知ることができます

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターは道の駅の隣にあり、「保護区」の適正な管理と自然教育を行っています。子どもめ、自然にふれあい、親しむことができる施設です。ま保護区とその周辺で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリもしています。

「道の駅」に行ってみよう！



開館時間 9時～19時  
休館日 年末年始(12月31日～1月2日)  
電話番号 58-4137



開放的な館内でドライブ休憩ができます。また、館内から湖を眺めることもできます



道の駅から湖岸への歩道があり、間近に野鳥を観察することができます

道の駅ウトナイ湖は、平成21年10月にオープンしたばかりの新しい施設で、ウトナイ湖の湖畔にあります。市内外からの来訪者の休憩スポットであるとともに、豊かなウトナイ湖の自然を満喫することができます。

自然観察歩道を散策してみよう！

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター横から湖岸の観察小屋まで、約2.1kmの自然観察歩道があります。この観察歩道からウトナイ湖の野鳥や動植物を観察することができます！

自然観察歩道での注意点

- お互いに道を譲り合おう！
- 動物に石や木の枝を投げたり、大声を出して驚かささないで
- 植物をむやみに採取しないで
- ごみは必ず持ち帰ろう！
- 禁煙を守ろう！



◀ネイチャーセンターからは湖を一望でき、備え付けの望遠鏡で自由に野鳥観察ができます(土・日曜日、祝日のみ開館)



自然観察歩道を歩いてみると、さまざまな鳥や植物、動物にきっと出会えるよ！



ラムサール条約ってなに？

国際的に重要な湿地およびそこに生息する動植物の保全を進めることを目的に定められた条約です。世界で1,886カ所、日本で37カ所が登録されています。北海道では釧路の釧路湿原、美唄の宮島沼、ウトナイ湖など12カ所が登録されています。

ウトナイ湖情報

ウトナイ湖は周囲約9km、面積275ha、平均水深60cmの淡水湖で、苫小牧市東部に位置し、美々川、トキサタマップ川、オタルマップ川の3本の河川が流入し、勇払川へ流出しています。

勇払原野の豊かな自然環境を残し、これまでに野鳥約270種、植物約500種、昆虫約3,900種、魚類約30種が確認されており、動植物の宝庫、特に野鳥の楽園と呼ばれています。

渡り鳥の越冬地、中継地として有名で、これまでに国内で記録されている野鳥の半数が確認されています。そのため、1981年には日本野鳥の会により、日本初のサンクチュアリに指定され、野鳥観察や保護を行うネイチャーセンターも設置されました。さらに、1982年に国指定鳥獣保護区となり、1991年にはラムサール条約湿地に登録されました。

次のページでウトナイ湖にどんな鳥がくるのか見てみよう！